

北の子

浜岡北小学校だより 令和2年度12月号

<学校教育目標>

「たくましさ」と「思いやり」で未来をつくる子

<重点目標>

進んで関わり 認め合う子

ゲーム障害・ネット依存防止のために

12月3日(木)、北こども園との共催で浜松学院大学短期大学部長の今井昌彦氏による「ゲーム障害・ネット依存防止」についての講演会を体育館で実施しました。プレゼンテーションを使った今井氏の具体的で説得力のある説明を聞いて、危機感をもった方も多かったのではないかと思います。(内容については「広報おまえぎ」に掲載されますので、ぜひ御覧ください。)その後、5・6年生が親子で今までのゲームやスマホとの付き合い方について振り返り今後やることを話し合ったので、紹介します。

【ゲームやスマホとの付き合い方】

・今のままでよい…約8% ・少し見直した方がよい…約70% ・大いに見直した方がよい…約22%

【「今のままでよい」を選んだ人の例】

子ども…自分の自由時間の中でも余裕があるときしかしていない。頑張ることは寝る前に使用しない。
(深い眠りについて学力向上を目指すため。)

保護者…スマホは中学に入って購入する予定だが、**連絡手段・調べものなど使用目的をはっきりさせ効果的に使えるよう見守る。**(マイナス面が多くなりすぎないようにしたいから。)

【「少し見直した方がよい」「大いに見直した方がよい」を選んだ人の例】

子ども…**ゲームを先にやって(30~40分以内)**、勉強を後にやる。**目を近づけない。**
(脳が破壊されにくくなり、頭が整理されやすく、記憶力が低下しにくいし、**睡眠障害を防げるから。**)



保護者…**時間帯に気を付ける。**ゲームやスマホをどのように使うのかの**話し合いを家族ですて、親子で気を付ける。**(スマホやゲームによる弊害が深刻だと分かったので、子どもの**健康を第一に考えて、強制ではなく意識して自己管理できるようにしていきたい。)**

何のために具体的に何をするのかを考え実行することに大きな意味があります。1~4年生についても、ぜひ御家庭で話し合ってみてください

今井氏の話では、普段から**家族のコミュニケーション**がとれている家庭の子どもは、将来ネット依存はもちろんあらゆる依存症(例…アルコール、麻薬)になりにくいということです。また、次のような、シンガポールのあるサイトに投稿された話を紹介されました。



夕食後に学校の子どもの宿題を確認していた女性教師が突然泣き出した。スマホでお気に入りのゲームをしていた夫が驚いて「どうしたの?何かあったの?」と声をかけた。

話を聞くと、女性は小学1年生の子どもたちに「自分の願い」を書く課題を出したとのこと。すると、最後に確認した**男の子の回答に涙があふれてしまった。**その回答には、こんなことが書かれていた。

僕の願いは、スマートフォンになることです。だって、パパとママはスマートフォンが大好きだから。

二人は、僕のことよりもスマートフォンのことばかり気にしています。パパが仕事で疲れて帰ってきたとき、スマートフォンのための時間はあるけど、僕のための時間はないみたい。パパとママは、大事な仕事をしているときでも、電話が鳴るとすぐ電話をとるんだ。僕が泣いても気にしないけど…。二人は、僕じゃなくてスマートフォンと遊ぶんだ。誰かと電話をしているときは、僕がどんなに大事なことを伝えようとしても聞いてくれない。

だから僕は、スマートフォンになりたいんだ。

あまりにも切実な願いに、感情的になってしまった夫が「一体誰がそんなことを書いたんだ?!」と質問すると、妻が「私たちの息子よ…。」と答えた。

皆さんは、これを読んでどう思いましたか。

(校長 北原 弘明)